

第7章 高専に対する社会の要望

7. 1 はじめに

本章では、企業アンケートの回答（253件）をもとに、高専に対する企業等の意見をまとめ、高専に対する社会の要望とする。【企業14】「高専に望まれることがあれば、以下にご記入下さい」と【企業15】「最後に、教育機関としての高専の存在意義、将来のあるべき姿等についてご意見があればお聞かせ下さい」の記述式の回答をもとに、「7. 2 高専に対する希望」、「7. 3 教育機関としての高専の存在意義、将来的にあるべき姿等」についてまとめる。

7. 2 高専に望むこと

【企業14】「高専に望まれることがあれば、以下にご記入下さい」は、(a)「学生へのアドバイス」、(b)「教員に望むこと」、(c)「その他」の項目ごとに回答を得た。(c)その他の項目の回答は(a)または(b)のいずれかに関連しており、それらに含めてまとめている。

7. 2. 1 (a)「学生へのアドバイス」

平成24年度のアンケート結果では、「コミュニケーション能力」についての回答が多かった。しかしながら、2019年度の企業からの回答では、「コミュニケーション」という言葉は相対的に明らかに少なくなっている。「コミュニケーション」という言葉が含まれているアドバイスは2件のみとなっており、さらに「チームワーク」や「協調性」など、人間関係や他者との交流に関するアドバイスもそれほど多くはない。以下に「コミュニケーション」に関する回答を挙げる。

7. 2. 1. 1 コミュニケーション

コミュニケーションに関するコメントは以下の通りである。

- ・ 元気にコミュニケーションが取れる学生となって下さい
- ・ 資格取得、基礎学力全般、コミュニケーション能力
- ・ 幅広い人間関係づくり、相談できる人をつくりましょう
- ・ 部活動やロボコンなどでチームワークを学んでほしい
- ・ 人と向き合うことを大切にしてください
- ・ 難しくても自分の時間をつくり、他人と接する機会をもつ
- ・ 協調性
- ・ 学校で習う知識はしっかり勉強頂きたい. 対人能力を高める活動もお願いしたい

以上のように、人間関係の構築を推奨するアドバイスがあるが、量としてはそれほどではない。しかし、【企業11】「学生時代に、特に身につけておきたい資質、能力は、どのようなことだとお考えですか？」の質問においては、「コミュニケーションスキル」がもっとも選択された項目である。学生に求める能力がコミュニケーションスキルであるならば、学生へのアドバイスとしてもコミュニケーションについての言及が増える方が自然である

ように思われる。

この企業が学生に求める能力と、学生へのアドバイス内容の乖離の理由としては次のようなものが考えられるかもしれない。

- (1) コミュニケーションスキルは、この後に述べる「人間力」（あるいは「非認知能力」など）と呼ばれている能力の一つとして考えられているため、人間力について述べることで、コミュニケーションスキルの修得を求めている。
- (2) コミュニケーションの重要性は、以前から社会的に周知、認識されているため、改めて学生へのアドバイスとして述べる必要を感じなかった（コミュニケーションスキルを養うことは当然であると見なされている）。
- (3) コミュニケーションについてのアドバイス以上に企業にとって学生に伝えたい内容が存在する。

本報告では、(3)がもっとも可能性として高いと考えている。その理由は後述する。

7. 2. 1. 2 学力

次に企業からの学生へのアドバイスとして注目すべきは、「学力」についてである。学力についての学生へのアドバイス内容は、基本的に「基本的な専門知識をしっかりと身に付けておくこと」に要約できるだろう。これは、【企業11】「学生時代に、特に身につけておきたい資質、能力は、どのようなことだとお考えですか？」の質問のなかで、認知能力に関して、「工学一般基礎」、「専門基礎知識」、「数学」の項目が、「専門応用能力」「分野横断能力」よりも、明らかに多くの企業が選択していることから窺えることである。アドバイスでは「基礎知識」という表現が用いられていることが多いが、その具体的内容までは不明である。しかし、この「基礎知識の修得」を推奨するアドバイスが存在するということは、徳山高専生も含め高専生が身につけている基礎知識のレベルが、企業にとって必ずしも満足できるものではないということを示唆していると解釈することができる。実際に入社した新入社員を念頭においたアドバイスであれば、基礎知識の修得が十分ではないと考えている企業が存在していると考えるのは合理的であろう。ただし、アドバイス全体の量からすると基礎知識についてのアドバイスは3割以下に留まるため、あらゆる企業が、高専生の基礎知識の修得に不満であるとは言えないだろう。実際、企業から学校への要望のなかには、「専門基礎知識の習得には満足しています」というコメントも存在する。

- ・ 背伸びする必要は無い基本を身につけること
- ・ 土木、建築の専門知識をしっかりと学び専門応用能力も身に付けて頂きたい
- ・ 学生時代はのびのびと勉強に励んでほしい
- ・ 基本をしっかりと学ぶ
- ・ 設計職を目指すなら基礎知識をしっかりと修得してください（機械系：機械製図、4力学、英語、電気系：電気製図、英語）
- ・ 学ぶことの重要さを習得してほしい
- ・ 5年間という時間を有効に使って実践を身につけて欲しい

- ・ 学生の頃は学ぶことに注力し、その情熱のまま企業でも活躍して頂きたい
- ・ たくさん研究、実践を積んで下さい
- ・ 基礎知識及び専門知識をしっかりと身につけてください
- ・ 社会に出て必要な専門的基礎知識を身につけておいて欲しい
- ・ 勉学に励み、専門基礎知識を高めてほしい
- ・ 学生時代に基礎力（専門、英語、数学等）を身につけて下さい
- ・ 良く勉強をすること
- ・ 本科5年、専攻科7年の一貫教育の強みを生かして下さい
- ・ 基礎的国家資格は、早めに取り準備を
- ・ 語学力を身につけておくと、入社後業務の幅が広がります

7. 2. 1. 3 挑戦と体験

企業から学生へのアドバイスとして、基礎知識の修得以上に多かった内容は、「挑戦」と「体験」の推奨である。企業からのアドバイスには、「挑戦」や「チャレンジ」という言葉が比較的目立つ。また、「学生のうちにしかできない体験」や「経験」を推奨するものもある。さらに、「積極的（積極性）」や広い「視野」を持つことも推奨している。以下に、該当するアドバイスを挙げる。

- ・ 学生時代にしかできない時間を使って幅広い知見を得て欲しい
- ・ 高専の体験は社会の体験にとっても近いので楽しんで過ごして下さい
- ・ 視野を広げて様々な会社、仕事、物事に興味をもって下さい
- ・ 学生の中に、色々な事に挑戦して欲しい
- ・ 学生時代に勉強だけでなく、いろいろな経験をしてほしい
- ・ 学生でなければできない経験はたくさんあります。色々な事に興味を持ち取り込んで下さい
- ・ 大いに学び大いに遊べ。学生時代にしかできない事に全力を注いでください
- ・ 何事にも積極的にチャレンジしてほしい
- ・ 専門以外の色々な事にチャレンジして欲しい
- ・ 社会人になってはできないこと、学生だからできることを学生のうちにやってほしい
- ・ 様々なことにチャレンジして下さい
- ・ 学生の時から社会経験を積んでもらいたい
- ・ 色々なことに興味を持ち、積極的に取り組んでいただきたい
- ・ 勉学、交友、共に、今しか出来ないことを大切に過ごしていただきたいと存じます
- ・ 積極的に手を動かして、モノづくりのための技術習得にチャレンジしてください
- ・ 知的好奇心を持って学問等に取り組んで下さい
- ・ 勉学、スポーツに励み充実した学生生活を送っていただきたい
- ・ 色々なことを経験し、社会性を身に付けて頂きたいです
- ・ 学生生活を楽しみながら積極性や向上心といった仕事に必要な素養を養って行って下さい

- ・ 学業以外にも、幅広いことに興味を持って自分の知識として下さい
- ・ 広い視野を持ってもらいたい。たくさん本を読んでほしい
- ・ 専門知識を学べる環境ですので、何事にも積極的に取り組んでいただければと思います
- ・ 技術力、問題解決能力、感性や創造性をみがき上げた能力
- ・ 様々なことに疑問を持ち、解決する努力をしてほしい

このような「挑戦」と「体験」を推奨するアドバイスはどのように解釈すべきだろうか。単純に、学校生活において学業以外の経験が重要であるという人生の先達としてのアドバイスだと理解することもできる。あるいは、「社会性を身につけて頂きたい」というアドバイスがあるように、体験や挑戦を通じて、学生に社会性のような認知能力以外の能力、すなわち非認知的能力を身につけてもらうことを期待しているとも解釈できる。

非認知能力は、専門知識のような認知能力とは違う能力に関わるものである。これは、高専機構が策定した「モデルコアカリキュラム」における「分野横断能力」や文部科学省が提唱している「生きる力」、経産省の「社会人基礎力」に関するものである。非認知能力の具体的な例を【企業11】「学生時代に、特に身につけておきたい資質、能力は、どのようなことだとお考えですか？」の質問の選択項目から挙げると、14「主体性や自律性」、15「自己管理能力」17「チームワーク力」18「協調性」22「問題解決力」32「人間性」などが考えられ、先に話題にした11「コミュニケーションスキル」も含まれるだろう。

たとえば、「技術力、問題解決能力、感性や創造性をみがき上げた能力」「様々なことに疑問を持ち、解決する努力をしてほしい」という企業からのアドバイスは、「問題解決力」を求める意見だと解釈することができるだろう。

しかしながら、アドバイスの全体としては、明確に「人間力」のようなものを意図してアドバイスが行われているかは不明瞭である。むしろ、漠然としたアドバイスであるようにも見える。

【企業11】「学生時代に、特に身につけておきたい資質、能力は、どのようなことだとお考えですか？」の質問において示された各種能力を明確に念頭においてアドバイスを書いたとは考えられないため、基本的には、単純に「挑戦」と「体験」を推奨するアドバイスと捉える方が理に適っているだろう。

7. 2. 1. 4 就職

学生へのアドバイスとして、今回のアンケート調査において著しく顕著な傾向を示した内容は、就職に関わるものである。平成24年のアンケート調査では、ほとんど見られなかったものであり、学生へのアドバイスというよりも学生への要望という様相を呈している。以下にその内容を挙げる。

- ・ 有名でない会社にも目を向けてみて下さい
- ・ 視野を広げて様々な会社、仕事、物事に興味をもって下さい
- ・ 大手志向に就職はなりがちだが、中小企業でも、優良企業、技術的にすばらしい企業は多くあるので、そういう会社にも目を向けてほしいと感じる

- ・ 知名度にとらわれない就職先えらびを
- ・ 全国各地に見を向けて欲しい
- ・ 大学に進学したいのであれば高専に入らず普通高校から行ってほしい
- ・ 就職活動にあたり、様々な業種を見て知ってもらえるようアドバイスをしていたければ幸いです
- ・ 地元企業にも元気な企業は沢山ある
- ・ B to B 企業にも優良企業がある事を知って欲しい
- ・ 地元にとらわれず、幅広い視野で物事を考えて欲しい
- ・ 地元企業に入社して下さい
- ・ 幅広い視野で様々な企業に目を向けて下さい
- ・ 北九州に本社をかまえている弊社ですが、支店が各地にありますので、一度調べてみて下さい
- ・ 「防食」という専門分野の業務に関わることができます
- ・ 地元の中小企業だからこそ求める仕事があると思います
- ・ 交通費、宿泊費の負担を致しますのでインターンシップに御来社下さい
- ・ 公共の仕事にも目を向けていただき、公務員を進路の1つと考えていただけますと幸いです。

以上のアドバイス（要望）からは、コメントをした企業は、大企業（大手企業）へ興味を向ける学生、地元就職に意識が向いている学生を念頭において、学生向けの要望を書いているのだろうと推察できる。ここには、近年顕著になり今後ますます深刻な問題になるだろう人手不足の現状が現れていると言ってよいだろう。そして、このような企業側の反応は、徳山高専の現状を認識した上での要望でも、徳山高専に対する評価を反映した要望でもないだろう。

また、この傾向は後述する「b. 教員に望むこと」においても同様である。

7. 2. 2 (b)教員に望むこと

教員への要望は、「人間性」「就職」に大別できるだろう。学生への要望に見られた基礎学力についての要望は、全体としては少数に留まっている。以下、「人間性」「就職」に関する要望を見ていく。

7. 2. 2. 1 人間性

「人間性」に関わる教員への要望は、学生に対するアドバイスとして挙がっていた「挑戦」と「体験」に関係すると思われる。まず、以下にコメントを挙げることにする。

- ・ 学生の自主性を伸ばすご指導をして頂けたらと思います
- ・ ストレスに強い学生を育ててほしい
- ・ 技術スキルより人間性の向上に期待しています
- ・ 専門外への進学就職をした学生にも、その後の人生が続いていく学生時代に知識技能も必要な学習だが、それを越えた人間力についてもご指導頂きたい

- ・ 卒業後は 20 歳を超え、成人しているため自覚ある人物に成長させてほしい
- ・ 学生を型にはめず、興味のある事は深堀させて欲しい
- ・ 社会を教えていただきたいです
- ・ 1 人 1 人に目標を立てさせて下さい
- ・ 型にはまらない人材の育成
- ・ 人間関係 絆の大切さを身に付ける教育をお願いします
- ・ 学生としっかり対話し"徳山高専愛"を育て下さい
- ・ 今後も専門性と人間性を育てる教育をお願いできればと思います
- ・ 入社後のギャップを限りなく解消して欲しい
- ・ 専門基礎知識の習得には満足しています 語学力とコミュニケーション力の醸成をお願いします
- ・ いろいろな人とのコミュニケーション能力を向上できるような指導を期待します

学生に対しては、あまり見られなかった。「コミュニケーション」「人間性(人間力)」「自主性」などの言葉が見られ、人としての成長を高専教育に求めていると言えるだろう。その一方で、学生へのアドバイスのときには、不明瞭であった「非認知能力」に関する言葉が増えている。ただし、「非認知能力」を意識して要望が書かれているとまでは言い切れないだろう。

7. 2. 2. 2 就職

「就職」に関する教員への要望は、より直接的なものになっている。その多くは、「インターンシップの希望」、「学生の紹介」、「説明会への参加希望」となっている。

- ・ 採用実績のある企業のみならず様々な業界業種の企業を学生に紹介頂きたい
- ・ 地域にとらわれず、広く生徒を送り出して欲しい
- ・ 弊社では貴校からのインターンシップ受け入れ及び卒業生の能力を高く評価しており優秀な学生のご紹介を望んでおります
- ・ 1DAY インターンシップによる各業界知識の必要性を説く
- ・ インターンシップをお願いしたい
- ・ 地元ならびに産業界へは技術者を提供してほしい
- ・ 学生との話す機会をふやしてもらいたい
- ・ 学内での企業説明会の企画
- ・ ぜひ、地元の会社を就職先へ
- ・ 土木の施工管理へ興味を持つようにしてほしい
- ・ 学生を紹介してほしい。(下関や北九州など福岡近郊)
- ・ 地元の中小企業を PR して頂きたい
- ・ 全国区の会社に目を向けるよう学生さんに指導して欲しい
- ・ 名前が知られていない企業 (B to B メーカー等) の中でも、日本のモノづくりを支えてきた企業が沢山あるという事を、学生の皆さんに伝えていただければ幸いです
- ・ 学内説明会などで弊社を PR させて下さい

- ・ インターンシップを受け入れます。宜しくお願いします
- ・ 学生様の将来のはたらき方、キャリアを考える機会を作って頂きたいです
- ・ 学生とのキャリア共有にて、マッチングした人財を当社に是非ご紹介いただけますと幸いです
- ・ 学生さん達に大手がすべてではなく、当社のような会社もあることをご紹介いただきたくと思います
- ・ 地方創生、地域活性に向けて、若者を地元で託して欲しい
- ・ 説明会に参加させて頂きたく思っております
- ・ 学内説明会に参加させて頂いたら幸いです
- ・ 合同企業説明会へ参加させていただきたい
- ・ テクノアカデミア会員への卒業生の就職支援をお願いしたい
- ・ 採用実績はないが、是非、本社または岩国工場より会社案内・セミナー等を行わせて欲しい
- ・ 当社では製品の製造機械設備の自社開発も手掛けており、高専の学生の皆様の中で食の分野での活躍をお考えの方にはぜひ工場見学へお越しください!!

以上のように、インターンシップの受け入れや、企業説明会の実施のような要望に加え、地元企業や中小企業、あるいは特定の業種に目を向けるような指導を要望する意見が多く挙がっている。要するに、このアンケートに回答した企業に学生が注目する機会を作りたいという要望である。この種類のコメントでは、当然ながら高専からの就職実績がある企業からと思われるコメントは見受けられない。

7. 3 高専の存在意義と将来

「最後に、教育機関としての高専の存在意義、将来のあるべき姿等についてご意見があればお聞かせ下さい」という質問に対する回答としては、全体として比較的好意的なコメントが多い。「今後も優秀な学生を社会へ送り出し続けていただければと思っています」のようなコメントも複数存在する。以下にさらに細かく見ていくが、現状の高専のあり方を抜本的に変えていくことよりも、現状の高専をよりよくしていくことを望んでいる傾向にあると思われる。

7. 3. 1 人材の育成機関

まず企業は、高専の存在意義や将来について、高専が「人材を育成する機関」であることを望んでいる。以下にコメントを挙げる。

- ・ 地元企業への優秀な人財の供給
- ・ 山口県（周南地区）に徳山高専があるので地元で就職し活躍してほしい
- ・ 優秀人材の輩出機関として存在して欲しい
- ・ エンジニアの養成機関としての自覚責任を持って教育に取り組んでもらいたい
- ・ 大学との差別化 有効性はあると思います
- ・ 即戦力としての技術力と人間性を高める教育を期待します

- ・ 少子化や大学全入時代などの流れはあるものの、専門性を早期に身につけた若手技術者を世に送り出し、実践でスキルを身につけさせる事は日本産業にとって必要不可欠なことであるため、是非高専生の採用を積極的に実施していく所存である
- ・ 早期に社会進出する学生諸氏は職業選択時期も早く人間的にしっかりしていると思いますが、であるからこそ業界説明を早期に行う必要があると思います
- ・ 良い大学に編入できる専門学校的な位置付けではなく（十分に通用するので）卒業後は即戦力の技術者として社会に送り出して欲しい
- ・ 専門的基礎技術を有し、職場で即戦力となる上若いことが何より強み。今後も、そのようであって欲しいです

このように、大学に進学するのではなく、大学よりも早期に人材を送り出す教育機関として高専を求めていることが分かる。これは、いくつかのコメントにもあるように、高専から大学への編入学という進路選択は、企業にとってあまり好ましいものと見ていないということでもある。大学への編入学よりも人材輩出を高専に求めるのは当然の発想であろう。ただし、高専の編入学を重視しないということは、コメントにはないが、専攻科の存在を企業はあまり重視していないということを示すものである可能性がある。

7. 3. 2 大学等との差異

二つ目は大学との差異に触れたコメントについて取りあげる。以下に挙げるコメントは、大学等と比較しての高専のあり方について示唆を与えるものであるだろう。

- ・ (ミニ) 大学化では無く、高専 MCC の確立に期待しています
- ・ 非常に粘り強く熱心な学生様を育成されていらっしゃると思います。他の教育機関にはない特性なので永く続いて欲しいと思っています
- ・ 若い即戦力人財を輩出する最も社会に貢献した機関であると思う。将来も変わってはならない
- ・ 長期（5年）にわたる専門教育により高い専門知識と技術力を持った学生を創出出来るのが高専の存在意義と考えます
- ・ 大学卒よりも専門性が高く、社会での成長も期待できます。高専在学時に長期間のインターンシップ等により設計業務全般を経験することでさらに成長すると考えます
- ・ 高専卒は大卒や高卒社員とは異なり、生産現場での長を目指したスペシャリストとしての能力が長く求められます。現場での指揮命令等が出来るコミュニケーション能力も必要とされています。近年は大学や大学院への進学が増加している様ですが社会に出る事の重要性をもっと強調していただければと思います
- ・ 将来開設される専門職大学との差別化を計りながら幅広い知識を身につけた若い人材を産業界に送り込んでくれる事を期待します
- ・ 大学生よりも人柄、人間性の良い人財が多い様に思う。今後も専門機関として、日本の技術未来のために存在してほしい
- ・ 一貫して5年に渡り研究にとりくめるということで、大学機関よりも専門的な面もおりかと思えます。その点に大いに期待しています

- ・ 国立ということで学費が安く、経済的に恵まれていない家庭の子弟にとっては高専の存在意義は大きいと思う。他大学とは異なる、地域に根ざした教育活動を行っていただきたい
- ・ 異論もありますが、一貫教育のメリットを今後も継続して戴きたい
- ・ 高校でも大学でもない工業高等専門学校として、実践力を持った人材を世に送り出す存在である事を期待しています
- ・ 大学と比較すると高専の卒業生の方がより実践力を身につけていると思う。より実践力を磨いていただければと思います
- ・ 大学進学への傾向が強い中、しっかりと学びたいと考え、粘り強さも備わっているのが高専生だと思うため、その長所は失くさないでいただきたいです

以上のコメントからは、現状の高専の教育機関としてのあり様は、大学とは異なる学生を育成し、その育成は好ましいものであることが窺えるだろう。高専生は、大学生とも高校生とも違った特性を持つ存在であることが求められている。また、5年間の一貫教育により、大学よりも実践力を持った学生を育てられていると認識されている。ここでは高専と大学との差異は、否定的なものではない。コメントによっては、大学よりも高専を高く評価しているものもある。少なくとも、高専が大学教育に近づくような方向を、企業は望んでいないということは確実に言えるであろう。

7. 3. 3 専門性を育成する機関

第三に、高専は高い専門性を有する機関であることが高専に求められている。コメントには、現状において専門的な技術者を育成しているという場合と、今後の要望として高い専門性を身に付けた技術者を育成する機関であって欲しいという要望の両方が含まれている。

- ・ 今まで通り専門性の教育をお願いします
- ・ 高い専門性を活かし、ものづくりの国である日本を創る技術者を養成する教育機関として重要であると思います
- ・ 高専の学生は、専門的知識を高いレベルで学べる環境にあり、企業にとっては非常に期待できる人材が揃っていると評価しております。今後もこのような優秀な人材育成に力を注いで頂きたいと願います
- ・ 専門的知識の習得と対外的なプレゼン力を今後とも磨いていただければと思います
- ・ 実務的な技術者の育成に不可欠な教育機関であると思います
- ・ 専門的な技術を学び、今後日本の製造業に関わる要となる方たちを育てておられる貴重な教育機関と認識しております。昨近、メンタル面で不調となる卒業生もおられますので、メンタル面のフォローをお願いしたいと考えます
- ・ 高度な技術専門知識のある学生を多く卒業されており、いい学校ですね
- ・ 専門分野において、大きく社会に貢献できる可能性
- ・ 専門的な文野を中心に学生を教育できる我々製造業を支えてくれる欠かせない機関

です。今後ともよろしくお願い致します

- ・ 専門分野の基礎知識を習得する上で大切な教育をされていると感じる

一番始めのコメントにもあるように、現状の専門的教育を継続して欲しいというのが、高専に対する要望であろう。現状の専門的な教育を施すための教育機関というあり方は、今後も続けて欲しいということであろう。高専は、教育機関として、専門技術以外の部分を重視した教育への教育にも転換することは可能だと思われる。例えば、リベラルアーツのようなもの英語教育、また非認知能力を伸ばすための授業を多く開講するということも可能であろう。しかし、教育機関として企業から求められているのは、あくまで専門性を身に付けさせる教育機関である。アンケートの回答からは、専門技術を育成する以外の教育をいていくことを求めるようなコメントは、ほぼ存在しなかった。上記のコメントにおいて「メンタル面のフォロー」を求める意見があるが、このコメントが明確に専門技術以外の教育を求めていると言えるものである。高専の存在意義や将来に関しては、「専門技術の育成機関」というのが、企業側の高専の存在意義であると言えるだろう。

7. 3. 3 世間への周知

少数の意見であるが、高専をもっと広めていくべきであるという意見が見られた。

- ・ もっと世の中に知って頂くべきと思います
- ・ ハード・ソフトの「ものづくり」を通して、社会にどのような価値をもたらしたいのか、どのような社会を作っていきたいか、そのような想いを、学内外へ広く発信し、広めて頂きたいと思います

高専としての存在意義や将来を考えるだけでなく、その考えを広く周知してもらう必要があるという指摘として、これらは少数意見ではあるが重要な意見であるだろう。

7. 3. 3 まとめ

以上のコメントから、徳山高専の存在意義や将来について企業は、基本的に現状の徳山高専の状況を肯定しているように読み取れるだろう。高専は、大学とは異なる5年間の早期一貫教育を特徴として専門的な技術を身に付けた人材を送り出す教育機関であるというのが企業からみる高専の存在意義であり、将来にわたってもそのあり方を変える必要性を感じていないと言ってよいだろう。このことから、徳山高専の将来を考える時、大学と差別化できないような改革は避けるべきであり、技術者教育の高度化を目指す方がよいということになるだろう。

7. 4 本章のまとめ

以上のように、この章では、企業に対しての三つの質問に対する自由記述を元に、高専に対する企業側の要望を明らかにしてきた。前回のアンケートと比較して、自社へ学生を紹介して欲しい、学生は自社へ興味を持って欲しいという企業から徳山高専への直接的な要望が明らかに増大しており、企業側は少子化により人材不足に危機感を抱いていて、そ

の危機感が反映された結果がアンケートから見て取れる結果となった。そのため、相対的に高専や高専生への教育に関する直接的な要望は減っている。また現状の高専や高専生に対する批判的な意見も少なくなっている。

批判的な意見が少ないことを、高専の現状がよい証拠であるとは簡単に言うことはできない。企業のコメントから、少子高齢化社会の日本において、高専は存在意義を失っていないとは言ってもいいだろう。

また、教員や高専に対して、共同研究の要望などは見られなかった。これは、企業にとっての高専の存在意義が人材輩出の教育機関であって、研究機関でないという証左であるかもしれないが、アンケートの内容が全体として教育に関するものであるという傾向性があるため、共同研究等への要望が発想しづらいからかもしれない。

高専の存在意義が企業に優秀な人材を送り出すための教育機関であるというのは、一面の真理ではあるだろうが、そのような企業側の認識は大学進学への否定的な意見として表れてきている。今後の高専のあり方は、企業以外の学生本人や大学、保護者、地域社会など、複数の関係者からの意見も参考にして、総合的に判断しなければならないだろう。とはいえ、企業の要望から導き出せる高専の将来は、「現状の大学とは異なる 5 年間の早期一貫教育を特徴として専門的な技術を身に付けた人材を送り出す教育機関として、特に専門的な教育のレベルをより高めることを目指すこと」にあるだろう。

(担当：高橋)